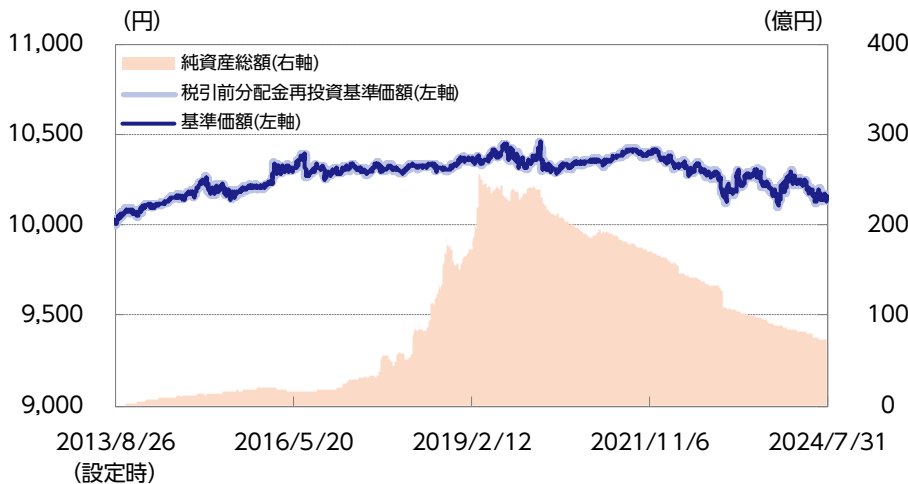


運用実績

基準価額・純資産の推移



基準価額および純資産総額

基準価額	10,129円
前月末比	-22円
純資産総額	71億円

分配の推移 (1万口当り、税引前)

期	年月	金額 (円)
第4期	2017年09月	0円
第5期	2018年09月	0円
第6期	2019年09月	0円
第7期	2020年09月	0円
第8期	2021年09月	0円
第9期	2022年09月	0円
第10期	2023年09月	0円
直近1年間累計		0円
設定来累計額		0円

基準価額の騰落率 (税引前分配金再投資)

	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
ファンド	-0.2%	-0.6%	-1.1%	-1.0%	-2.7%	1.3%

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※基準価額は信託報酬控除後のものです。税引前分配金再投資基準価額は分配金(税引前)を再投資したものと計算しております。なお、信託報酬率は「手続・手数料等」の「ファンドの費用」をご覧ください。

※運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。分配金は信託財産から支払いますので、基準価額が下がる要因となります。収益分配金には普通分配金に対して所得税および地方税がかかります(個人受益者の場合)。

※ファンド騰落率は分配金(税引前)を再投資したものと計算しており、実際の投資家利回りと異なります。

※基準価額の前月末比は、決算日到来月に分配金支払実績がある場合、分配金込みで算出しています。

ファンドの状況

当月についても、おおむねラダー型(※)のポートフォリオ構成を維持しました。

当月末の基準価額は10,129円となり、前月末比-22円となりました。当月は、保有している社債の利回りが前月末比で上昇(価格は下落)したことにより、月間の基準価額騰落率は-0.22%となりました。

(※) 債券の残存期間ごとに均等に投資を行い、常にラダー(はしご)の形の満期構成になるようにする運用です。ラダー型運用は金利リスクを平均化しつつ、収益性も確保することを目的とした運用手法です。

マザーファンドの状況

ポートフォリオ情報		
平均格付	※1	AA-
平均修正デュレーション	※2	4.93年
平均最終利回り	※3	1.03%
平均クーポン	※4	0.64%
平均直利	※5	0.65%
銘柄数		178
純資産総額		627億円

※対組入債券評価額比

※1 格付は、R&I、JCR、ムーディーズ、S&Pのうち、上位の格付を採用しております。以下同じです。

また平均格付とは、マザーファンドが組み入れている債券にかかる格付を加重平均したものであり、当ファンドにかかる格付ではありません。

※2「デュレーション」=債券投資におけるリスク度合いを表す指標の一つで、金利変動に対する債券価格の反応の大きさ(リスクの大きさ)を表し、デュレーションが長いほど債券価格の反応は大きくなります。

※3「最終利回り」=満期までの保有を前提とすると、債券の購入日から償還日までに入ってくる受取利息や償還差損益(額面と購入価額の差)等の合計額が投資元本に対して1年当たりどれくらいになるかを表す指標です。

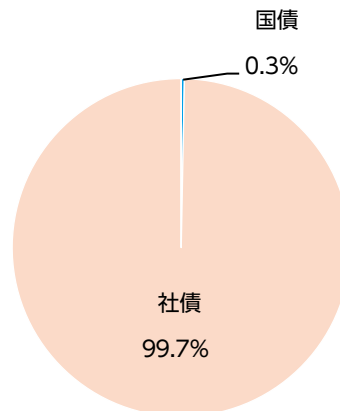
※4「クーポン」=額面金額に対する単年の利息の割合を表します。

※5「平均直利」=平均クーポン÷平均時価単価

組入比率	
債券	99.2%
現金、その他	0.8%

※対純資産総額比

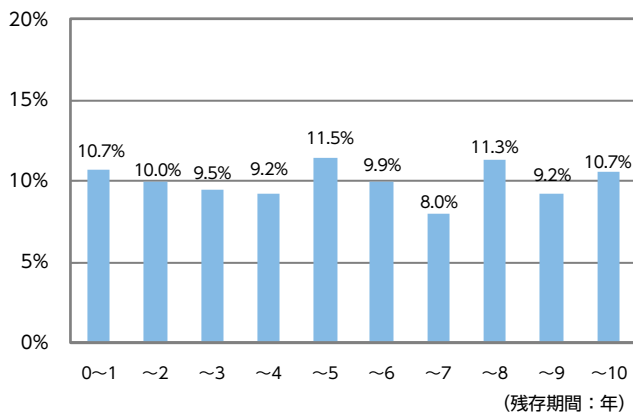
債券セクター別構成比率



※対組入債券評価額比

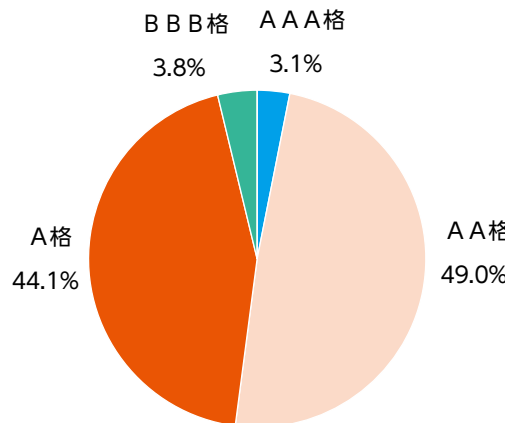
※社債には、公社公団債等の一部の特殊債券を含みます。

残存期間別組入比率



※組入比率は各残存期間毎の純資産総額に占める比率です。

格付分布



※対組入債券評価額比

組入上位10銘柄

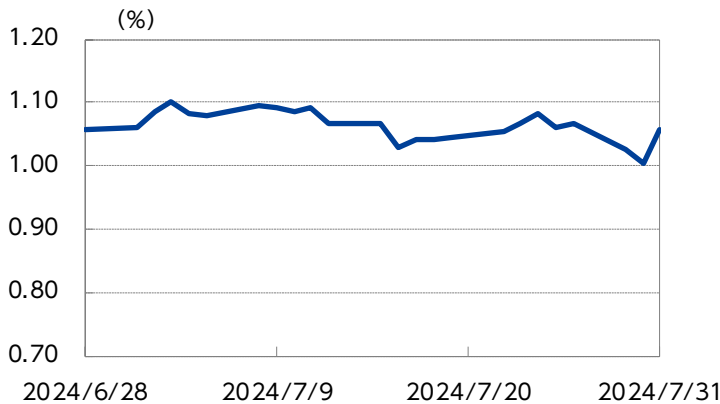
	銘柄	債券種別	償還日	クーポン	格付	比率
1	第32回 相鉄ホールディングス	社債	2025/01/28	0.580%	A-	1.9%
2	第1回 千葉銀行劣後特約付	社債	2024/08/29	0.911%	A+	1.9%
3	第3回 神奈川中央交通	社債	2026/12/07	0.480%	BBB+	1.4%
4	第106回 近鉄グループホールディングス	社債	2028/01/25	0.505%	BBB+	1.4%
5	第47回 大阪瓦斯(トランジションボンド)	社債	2032/09/01	0.529%	AA+	1.4%
6	第39回 南海電気鉄道	社債	2026/01/21	0.750%	A-	1.3%
7	第26回 住友電気工業	社債	2027/03/01	0.300%	AA	1.3%
8	第5回 ニフコ	社債	2028/05/08	0.385%	A+	1.3%
9	第4回 大日本印刷	社債	2029/07/19	0.280%	AA-	1.2%
10	第17回 ダイセル	社債	2030/12/13	0.500%	A+	1.2%

※対組入債券評価額比

※社債には、公社公団債等の一部の特殊債券を含みます。

マーケットの状況

日本金利（10年国債）の推移



※ブルームバーグのデータをもとに、ニッセイアセットマネジメントが作成しています。

<ご参考> 新発10年固定利付国債の利回り（終値）

10年国債利回り	1.045%
----------	--------

※日本相互証券株式会社のデータをもとに、ニッセイアセットマネジメントが作成しています。
※この利回りの水準に応じて当ファンドの信託報酬等を決定しております。（詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。）
※この利回りは、左記チャートの利回り、下記の当月の市況動向で記載する利回りと異なります。

当月の市況動向

前月末を1.06%近辺でスタートした国内長期金利は、前半は6月の米雇用統計や米消費者物価指数（CPI）の下振れが金利低下要因となった一方、堅調な5月の毎月勤労統計調査（速報）や7月の地域経済報告（さくらリポート）の内容を受けて、日銀の金融政策修正観測が高まったことが金利上昇要因となり、横ばいとなりました。後半は、政府要人の金融政策正常化への言及で、国内長期金利は一時上昇したものの、当月の金融政策決定会合に関する踏み込んだ報道がなかったことや海外金利が低下したことから、金融政策決定会合前日にかけて国内長期金利は低下しました。月末に開催された日銀の金融政策決定会合では、政策金利の0.25%への引き上げや国債買い入れオペ（公開市場操作）の減額計画が決定され、国内長期金利は上昇しました。その結果、国内長期金利は前月末比横ばいの1.06%近辺で月末を迎えました。国内短中期金利は、日銀による利上げを受けて前月末比で上昇しました。

社債スプレッド（国債に対する上乗せ金利）については、円高進行によって企業業績が悪化すると懸念があったものの、底堅い社債投資需要が見られ、前月末比で横ばいとなりました。

今後の見通しと運用方針

国内長期金利は、当月末に日銀の金融政策決定会合にて決定された政策金利の引き上げが金利上昇圧力となる一方、投資家の待機資金流入や米国の利下げ観測の高まりが金利低下圧力となり、もみ合いを想定します。

社債スプレッドについては、引き続き底堅い社債需要が見込まれる一方で、継続的な利上げが示唆される中で社債発行額の増加による需給悪化が懸念されることから、おおむね横ばいを想定しています。

現在は、社債を中心にラダー型ポートフォリオを構築しています。今後も引き続き、社債を中心としたラダー型ポートフォリオを保持します。

ファンドの特色

- ①日本の多種多様な債券に投資します。
- ②信用リスクをコントロールします。
- ③ラダー型運用（等金額投資による運用）をめざします。
- ④年1回決算を行います。

投資リスク

※ご購入に際しては、投資信託説明書（交付目論見書）の内容を十分にお読みください。

基準価額の変動要因

- ファンド（マザーファンドを含みます）は、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資元本を割込むことがあります。
- ファンドは、預貯金とは異なり、投資元本および利回りの保証はありません。運用成果（損益）はすべて投資者の皆様のものとなりますので、ファンドのリスクを十分にご認識ください。

主な変動要因

債券投資 リスク	金利変動 リスク	金利は、景気や経済の状況等の影響を受け変動し、それにともない債券価格も変動します。一般に金利が上昇した場合には、債券の価格が下落します。
	信用リスク	債券の発行体が財政難・経営不振、資金繰り悪化等に陥り、債券の利息や償還金をあらかじめ定められた条件で支払うことができなくなる場合（債務不履行）、またはそれが予想される場合、債券の価格が下落することがあります。
流動性リスク		市場規模が小さいまたは取引量が少ない場合、市場実勢から予期される時期または価格で取引が行えず、損失を被る可能性があります。

! 基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

その他の留意点

分配金に関する留意事項

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの信託財産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。
- 分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。
- 受益者のファンドの購入価額によっては、支払われる分配金の一部または全部が実質的に元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。
- ファンドは、多量の換金の申込みが発生し換金代金を短期間で手当てする必要が生じた場合や組入資産の主たる取引市場において市場環境が急変した場合等には、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引ができないリスク、取引量が限定されるリスク等が顕在します。
これらにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性、換金の申込みの受け付けを中止する、また既に受け付けた換金の申込みの受け付けを取消する可能性、換金代金のお支払いが遅延する可能性があります。

手続・手数料等

※基準価額は便宜上1万口当りに換算した価額で表示されます。

お申込みメモ

購入時	購入単位	販売会社が定める単位とします。
	購入価額	購入申込受付日の基準価額とします。
換金時	換金価額	換金申込受付日の基準価額とします。
	換金代金	換金申込受付日から起算して、原則として5営業日目からお支払いします。
申込について	申込締切時間	原則として毎営業日の午後3時までに販売会社の手続きが完了したものを当日受付分とします。
決算・分配	決算日	9月20日（該当日が休業日の場合は翌営業日）
	収益分配	年1回の毎決算日に、収益分配方針に基づき収益分配を行います。
その他	信託期間	2044年9月20日まで（設定日：2013年8月26日）
	繰上償還	委託会社はあらかじめ受益者に書面により通知する等の手続きを経て、ファンドを繰上償還させることがあります。
	課税関係	課税上は株式投資信託として取扱われます。 配当控除、益金不算入制度の適用はありません。 公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合にNISA（少額投資非課税制度）の対象となり、当ファンドは、NISAの「成長投資枠（特定非課税管理勘定）」の対象となります。ただし、販売会社により取扱いが異なる場合があります。 詳しくは、販売会社にお問合せください。

❗ ご購入に際しては、投資信託説明書（交付目論見書）の内容を十分にお読みください。

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用																
購入時	購入時手数料	購入申込受付日の基準価額に 1.1%（税抜1.0%）を上限 として販売会社が独自に定める率をかけた額とします。 ※ 料率は変更となる場合があります。詳しくは販売会社にお問合せください。														
換金時	信託財産留保額	ありません。														
投資者が信託財産で間接的に負担する費用																
毎日	運用管理費用（信託報酬）	<p>ファンドの純資産総額に信託報酬率をかけた額とし、ファンドからご負担いただきます。信託報酬率は、各月1日から20日（20日が休業日の場合は翌営業日）までは当該月の前々月末、各月21日（20日が休業日の場合は翌営業日の翌日）から月末日までは当該月の前月末における日本相互証券株式会社が発表する新発10年固定利付国債の利回り（終値）に応じて、以下の通りとします。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>新発10年固定利付国債の利回り(終値)</th> <th>信託報酬率（年率）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0.5%未満</td> <td>0.1595%（税抜0.145%）</td> </tr> <tr> <td>0.5%以上 1%未満</td> <td>0.3520%（税抜0.320%）</td> </tr> <tr> <td>1%以上 3%未満</td> <td>0.4730%（税抜0.430%）</td> </tr> <tr> <td>3%以上 4%未満</td> <td>0.5940%（税抜0.540%）</td> </tr> <tr> <td>4%以上 5%未満</td> <td>0.8250%（税抜0.750%）</td> </tr> <tr> <td>5%以上</td> <td>0.9350%（税抜0.850%）</td> </tr> </tbody> </table>	新発10年固定利付国債の利回り(終値)	信託報酬率（年率）	0.5%未満	0.1595%（税抜0.145%）	0.5%以上 1%未満	0.3520%（税抜0.320%）	1%以上 3%未満	0.4730%（税抜0.430%）	3%以上 4%未満	0.5940%（税抜0.540%）	4%以上 5%未満	0.8250%（税抜0.750%）	5%以上	0.9350%（税抜0.850%）
	新発10年固定利付国債の利回り(終値)	信託報酬率（年率）														
0.5%未満	0.1595%（税抜0.145%）															
0.5%以上 1%未満	0.3520%（税抜0.320%）															
1%以上 3%未満	0.4730%（税抜0.430%）															
3%以上 4%未満	0.5940%（税抜0.540%）															
4%以上 5%未満	0.8250%（税抜0.750%）															
5%以上	0.9350%（税抜0.850%）															
	監査費用	ファンドの純資産総額に年率0.011%（税抜0.01%）をかけた額を上限とし、ファンドからご負担いただきます。														
随時	その他の費用・手数料	組入る有価証券の売買委託手数料、信託事務の諸費用および借入金の利息等はファンドからご負担いただきます。これらの費用は運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を記載することはできません。														

- ❗ 当該費用の合計額、その上限額および計算方法は、運用状況および受益者の保有期間等により異なるため、事前に記載することはできません。
- ❗ 詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

税金

分配時の普通分配金、換金（解約）時および償還時の差益（譲渡益）に対して、所得税および地方税がかかります。詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

- ・少額投資非課税制度「愛称：NISA（ニーサ）」は少額上場株式等に関する非課税制度であり、NISAをご利用の場合、一定の額を上限として、毎年、一定額の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得および譲渡所得が無期限で非課税となります。ご利用になれるのは、販売会社で非課税口座を開設し、税法上の要件を満たしたファンドを購入するなど、一定の条件に該当する方となります。詳しくは、販売会社にお問合せください。
- ・外国税額控除の適用となった場合には、分配時の税金が投資信託説明書（交付目論見書）の記載と異なる場合があります。
- ・法人の場合は上記とは異なります。
- ・税金の取扱いの詳細につきましては、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

委託会社【ファンドの運用の指図を行います】	ファンドに関するお問合せ先
ニッセイアセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者登録番号 関東財務局長（金商）第369号 加入協会：一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会	ニッセイアセットマネジメント株式会社 コールセンター 0120-762-506 9:00～17:00（土日祝日・年末年始を除く） ホームページ https://www.nam.co.jp/
受託会社【ファンドの財産の保管および管理を行います】	
三菱UFJ信託銀行株式会社	

ご留意いただきたい事項

- ①投資信託はリスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により変動し、運用成果（損益）はすべて投資者の皆様のものとなります。投資元本および利回りが保証された商品ではありません。
- ②当資料はニッセイアセットマネジメントが作成したものです。ご購入に際しては、販売会社よりお渡しする投資信託説明書（交付目論見書）、契約締結前交付書面等（目論見書補完書面を含む）の内容を十分にお読みになり、ご自身でご判断ください。
- ③投資信託は、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金による支払いの対象にはなりません。
- ④投資信託のお取引に関しては、クーリング・オフ（金融商品取引法第37条の6の規定）の適用はありません。
- ⑤当資料のいかなる内容も将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。また、資金動向、市況動向等によっては方針通りの運用ができない場合があります。
- ⑥当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- ⑦当資料のグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- ⑧当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- ⑨当資料の内容は原則作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。

取扱販売会社一覧

※販売会社は今後変更となる場合があります。また、販売会社によっては、新規のお申込みを停止している場合があります。詳しくは、販売会社または委託会社の照会先までお問合せください。

取扱販売会社名	登録金融機関	登録番号	日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会	取扱販売会社名	登録金融機関	登録番号	日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
	金融商品取引業者							金融商品取引業者					
あかつき証券株式会社	○	関東財務局長(金商)第67号	○	○	○		株式会社SBI新生銀行(委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社)	○	関東財務局長(登金)第10号	○			
auカブコム証券株式会社	○	関東財務局長(金商)第61号	○	○	○		スルガ銀行株式会社	○	東海財務局長(登金)第8号	○			
SMB C日興証券株式会社	○	関東財務局長(金商)第2251号	○	○	○		株式会社中京銀行(※2)	○	東海財務局長(登金)第17号	○			
株式会社SBI証券	○	関東財務局長(金商)第44号	○		○		株式会社西日本シティ銀行	○	福岡財務支局長(登金)第6号	○		○	
岡三証券株式会社(※1)	○	関東財務局長(金商)第53号	○	○	○		株式会社豊和銀行	○	九州財務局長(登金)第7号	○			
静岡東海証券株式会社	○	東海財務局長(金商)第8号	○				青い森信用金庫	○	東北財務局長(登金)第47号				
七十七証券株式会社	○	東北財務局長(金商)第37号	○				足利小山信用金庫	○	関東財務局長(登金)第217号				
東海東京証券株式会社(※3)	○	東海財務局長(金商)第140号	○	○	○		尼崎信用金庫	○	近畿財務局長(登金)第39号	○			
西日本シティT T証券株式会社	○	福岡財務支局長(金商)第75号	○				愛媛信用金庫	○	四国財務局長(登金)第15号				
松井証券株式会社	○	関東財務局長(金商)第164号	○		○		遠州信用金庫	○	東海財務局長(登金)第28号				
マネックス証券株式会社	○	関東財務局長(金商)第165号	○	○	○		大垣西濃信用金庫	○	東海財務局長(登金)第29号				
楽天証券株式会社	○	関東財務局長(金商)第195号	○	○	○		大阪シティ信用金庫	○	近畿財務局長(登金)第47号	○			
株式会社愛知銀行	○	東海財務局長(登金)第12号	○				川口信用金庫	○	関東財務局長(登金)第201号				
株式会社イオン銀行(委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社)	○	関東財務局長(登金)第633号	○				北群馬信用金庫	○	関東財務局長(登金)第233号				
株式会社SBI新生銀行(委託金融商品取引業者 株式会社SBI証券)	○	関東財務局長(登金)第10号	○		○		きのくに信用金庫	○	近畿財務局長(登金)第51号				
							桐生信用金庫	○	関東財務局長(登金)第234号				
							桑名三重信用金庫	○	東海財務局長(登金)第37号				

取扱販売会社名	登録金融機関	登録番号	日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会	取扱販売会社名	登録金融機関	登録番号	日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
	金融商品取引業者							金融商品取引業者					
さわやか信用金庫	○	関東財務局長(登金)第173号	○				奈良信用金庫	○	近畿財務局長(登金)第71号	○			
滋賀中央信用金庫	○	近畿財務局長(登金)第79号					飯能信用金庫	○	関東財務局長(登金)第203号				
しのもめ信用金庫	○	関東財務局長(登金)第232号					姫路信用金庫	○	近畿財務局長(登金)第80号	○			
城北信用金庫	○	関東財務局長(登金)第147号	○				兵庫信用金庫	○	近畿財務局長(登金)第81号	○			
須賀川信用金庫	○	東北財務局長(登金)第38号					平塚信用金庫	○	関東財務局長(登金)第196号				
大地みらい信用金庫	○	北海道財務局長(登金)第26号					碧海信用金庫	○	東海財務局長(登金)第66号	○			
玉島信用金庫	○	中国財務局長(登金)第30号					北海道信用金庫	○	北海道財務局長(登金)第19号				
津山信用金庫	○	中国財務局長(登金)第32号					杜の都信用金庫	○	東北財務局長(登金)第39号				
東京東信用金庫	○	関東財務局長(登金)第179号	○				横浜信用金庫	○	関東財務局長(登金)第198号	○			
東濃信用金庫	○	東海財務局長(登金)第53号	○				ニッセイアセットマネジメント株式会社(※4)	○	関東財務局長(金商)第369号		○		
長浜信用金庫	○	近畿財務局長(登金)第69号											

(※1)一般社団法人日本暗号資産取引業協会にも加入しております。

(※2)現在、新規申込の取り扱いを行っておりません。

(※3)一般社団法人日本STO協会にも加入しております。

(※4)一般社団法人投資信託協会にも加入しております。